

問題解決のためのデジタル化

23. 弱視

竹田孝太郎

阿彦広斗

山形奏明

飯山達彦

1. 問題（現状と理想的な状態）

【問題】

1. 交通事故
2. 高齢者の事故
3. 返納困難な生活環境
4. 未就学児、小学生の飛び出し
5. 若年運転者の過信
6. バス、タクシーの人手不足
7. 車依存と公共交通の悪循環

【理想的な状態】

- 1,4 交通事故を減少させる。
- 2,3 高齢者の事故を減少させる。
- 5 若年層の運転による事故を減少させる。
- 6,7 バス、タクシーや公共交通機関の利用本数を増やし、利用料金を下げ、運転者の待遇を改善する

2. 原因の洗い出しと問題点（解決可能な原因）の整理

- 死角を減らし、交通ルールの意識向上
- 年齢や体力に合わない行動を減らす
- 車がなくても生活できる環境を整える
- 子供が飛び出しても車とぶつからないようにする
- 「ながら運転」をなくすため、危険を正しく理解させる
- 自動運転や安全装置を過信しすぎないようにする
- 車ばかり使わず、公共交通が成り立つようにする
- 低い給料と長時間労働を減らす
- 事故を起こした時の責任や影響を理解させる
- 交通会社どうして情報や利益の対立を整理する

3. 課題の分類

自動運転シャトル導入で対策できる課題

1. 高齢者の運転事故や交通事故
2. 免許返納後の移動手段不足の解消
3. 公共交通利用者減少による悪循環
4. バスタクシーの運転手の人手不足

デジタル・ガバナンス整備で対策できる課題

1. 自動運転事故時の責任不明の所在の不明確さ
2. MaaSにおける事業者間のデータの分析

AI、インフラ整備で対策できる課題

1. 見通しの悪い交差点での事故
2. 子どもの飛び出し事故や、イヤホン使用と
いった中高生などのながら運転の事故
3. 若年運転者の過信・不注意による事故

4. 解決策の提案(同時に解決できる解決策)

社会のデジタル化

- 自動運転シャトル導入
- デジタル・ガバナンス整備
- AI、インフラ整備



人手不足を解消や移動を便利にするための AIやデマンド交通システム、MaaSの実用化など多くの問題が社会のデジタル化により対策できると考えられます。

5. 期待される効果・課題

【効果】

- 多くの問題を同時に解決できる
- 経済がより循環する

【課題】

- 自動運転レベル4やインフラ整備など実現に多くの資源が必要
- システムの統合などで長期間の開発が必要

6. まとめ

交通事故、高齢者の運転、公共交通などといった課題は、それぞれ独立した問題ではなく、車依存の社会が引き起こす連鎖的な課題であります。

そのため、本スライドでは、自動運転シャトル、AI・インフラ整備、デジタル・ガバナンスの整備を組み合わせることで、安全性の向上と移動の確保、交通事業の持続可能性といった問題点を同時に解決すると提案しました。

短期的な導入コストや制度整備の課題はあるものの、長期的な課題解決を目指しました。